

いっでんわ

熊本県立
芦北支援学校



第175号

令和3年12月24日
発行

紙面内容

- ◎分教室修学旅行
- ◎ここにこふれあい発表会
- ◎後期現場実習
- ◎各学部の活動紹介等

修学旅行

佐敷分教室

「持続可能な世界をつくるために」



校長
富永 佐世子

私がSDGsという言葉を知ったのは、テレビに映る著名人の襟に17色の円環バッジが目に入り、調べたことがきっかけでした。そのバッジの意味は、①国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」であること。②国際機関、政府、企業、市民社会、子どもも含めた全ての人がそれぞれの立場から目標達成のために行動することが求められていること。③キーワードは、「誰ひとり取り残さない」ということでした。私も、微力ではありますが、「フードロスをなくす。ゴミを分別する。」という、まずは自分の出来ることから取り組むことにしました。そしてその証としてバッジを購入し、教職員バッジと共に襟に付けるようにしました。すると、高等部の生徒が興味を示し始めたかと思うと、学習発表

会や文化祭で自分たちのこととして、その取り組みを発表してくるようになってきました。現に昨年、気候変動により発生した7月の豪雨水害では、人間の無力さを痛感させられています。授業では「SDGsとは」から始まり、地球上で何が起こっているのか、自分たちの住む場所で、自分に何が出来るとかを考え、行動したことを発表会で発表しました。中学部生徒は、実際に水俣の環境センターに行き、そこで体験した分別の仕方を披露しました。分教室生徒は、地球温暖化で水没する可能性のある都市があることにふれ、温室効果ガス排出を抑えるための取り組みについて芦北高校文化祭で発表するなど、聞いている私たち大人の方が深く考えさせられる内容となりました。社会的にも持続可能な社会を作るための気運は高まっているようです。芦北支援学校も児童・生徒・職員が一緒になって、これからの社会を、持続可能でよりよいものとするためにはどう行動したらよいか考え、出来ることから一歩を踏み出して行こうと思います。

11月10日から12日の2泊3日で、2年生、3年生は大分県に修学旅行に行きました。旅行当日までの事前学習では、旅先についての調べ学習、旅行のルール確認、修学旅行のしおり作りなど、様々な学習を行い、出発の日を迎えました。

1日目は、高崎山自然動物園、うみたまご水族館、アフリカンサファリの3か所を巡り、魚や動物たちとの触れ合いを楽しみました。2日目は、各グループに分かれ、城島高原パークで様々なアトラクションを体験したり、お土産を買ったりして朝から夕方まで一日中楽しみました。最終日は、別府市竹細工伝統産業会館での竹鈴制作体験、湯布院散策を行い、3日間を通して大分県の文化や伝統に触れる経験をしました。

充実した3日間を過ごし、仲間との絆も更に深められました。この経験をこれからの自分たちの生活でも存分に生かして行ってほしいと思います。

(境野)



ふれあい発表会

ふれあい発表会

小学部 スマイルあおむし

今年の小学部は、それぞれの得意技を披露しながら、かわいいあおむし5人組が大活躍しました。好きなことや得意なこと、勉強の成果を盛り込み笑顔いっぱいになりました。1年生3人による、4月からこれまでの活動紹介で、みんなもつと笑顔になりました。そしてファイナーレは、あおむし5人組が会場を盛り上げて、きれいな蝶に変身し、笑顔いっぱいのラストを飾りました。(塩田)



中学部 プロフェッショナル パワフルの流儀

今年度の中学部の発表では、近年話題になっているSDGsの取組を発表しました。「芦北町で今、私たちに何ができるか」をテーマに学習をしてきました。SDGsのロゴを完成させるべく、「⑫作る責任使う責任」と「⑭海の豊かさを守ろう」、「⑮森の豊かさを守ろう」のテーマに取り組みました。みんなの前で発表する緊張感を感じながらも得意な動きを生かして、自信を持って発表することができました。(田端)



訪問教育 イレブンピース

「たからものをさがしに」

今年度の訪問教育は、みんなで分担して船を作り、冒険の旅に出かけるストーリーに挑戦しました。お花紙を破ったり、セロファンを貼ったり、それぞれが得意な動きを生かしながら作った船は、とてもカラフルで素敵なものになりました。船に乗り込み、冒険の最後に見つけた宝物は、「友達」。制作の様子や、劇の台詞をスリッチ操作等で発表する様子を織り込んだ映像にたくさん拍手をいただきました。(山中)



高等部 自分ができるSDGsに取り組み

高等部では、今地球上で起きている環境問題などを学習し、身近で行われているSDGsの取組や自分たちが行った活動を大きなスゴクにまとめて紹介しました。

本番は3人とも緊張しましたが、各自が得意な動きを生かして、ペットボトルの分別、ペットボトルビーズのマラカス作り、手すき和紙の油吸い取りパック作りに挑戦し、見事に成功しました。これからも高等部ではSDGsの活動を続けていきます。(大瀬)



後期現場実習

佐敷分教室では、1〜3年生の全学年で10月11日(月)から22日(金)の10日間、現場実習を実施しました。

本年度2回目の実習となり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がありましたが、1年生にとっては、初めての現場実習を行いました。「やってみよう」というテーマをもち、現場実習に臨みました。2年生は、昨年度に前期実習がでぎずに通算3回目の現場実習となりました。2年生は、仕事の適性や興味を「見つけよう」というテーマで臨みました。3年生は「つかもう」がテーマで、卒業後に一般事業所や福祉的な事業所で採用していただけるかを見極める実習となり、緊張感をもって取り組みました。佐敷分教室全員が最後までしっかりとやり遂げることができました。

実習後の10月28日(木)は、現場実習報告会で、実習の成果や課題を発表しました。質疑応答では、後輩から先輩に、仕事内容について質問し、先輩方の実習に関心をもつことができました。

今後は、事業所から学んだことや褒められたことを生かし、これからの学習に生かしてほしいと思います。お世話になった事業所の方々には心より感謝申し上げます。

(中村)



各学部 の活動紹介

小学部

11月にお出かけ单元「とびだせ！芦北たんけんたい」で地域に出掛けました。セブンイレブンでは実際に買い物をして自動支払機にお金が入っていくのを見て驚いたり、コミュニケーションセンターでは遊び場を体験して木球のプールで汗をかくほど楽しんだりしました。道を歩きながら交通ルールを確認したり、消防署や佐敷駅などを見たりすることができて良かったです。また行きたいです。



(東)

中学部

12月7日に立志式を実施しました。立志式は、元服(江戸時代の成人式)にちなんで、15歳を前に、将来の決意や目標を明らかにすることで大人になる自覚を深めるために行いました。2年生の2人は、目標を紙に書いたり、決意発表の練習に取り組みました。立志式では、堂々と発表し、保護者の方々や校長先生に激励の言葉をいただきました。これまでの成長ビデオを見て、より成長や学びを感じることのできた式となりました。



(園山)

高等部

今学期は、発表会に向けた活動のほかに、制作活動やゲームに取り組みました。「芦援アートトレイン」に向けた制作活動では、マープリングや植物のスタンブ、スポンジ筆を利用した色付けなどに取り組み、それぞれ個性豊かな作品が出来上がりました。ゲームは、「ボッチャ」という競技に取り組みました。それぞれ得意な手の動きを生かしながら、ルールを利用してボールを転がし、自分のボールを目標球に近づくかを競い合いました。



(篠原)

訪問教育部

2学期のスポーツ单元では、小学部はボウリング大会、中・高等部は合同でボッチャ大会にそれぞれ取り組みました。小学部のボウリングでは、ボールの形や堅さなどの感触を確かめ、手で直接ボールに触れて転がし、得点を競いました。中・高合同のボッチャでは、振り子の仕掛けを操作してボールを転がし、得点を競いました。児童生徒それぞれが得意な動きを生かし、友達との勝負を意識しながら競技を楽しむことができました。



(廣嶋)

分教室

今学期を振り返りますと、9月は蔓延防止等重点措置(蔓防)により、全体での学習を自粛し、各学級での学習活動が中心となりました。学級で過ごす時間が増えた分、学級内の仲が深まるメリットもありました。その後、蔓防が解除となり、感染症対策を講じながら全体での学習活動を再開しました。現場実習、芦高祭、2、3年生の修学旅行といった行事が実施できました。制限はありましたが、様々な活動に精一杯取り組み、成長していく生徒たちの姿がありました。

今後も安全で充実した学習活動ができるよう、みんなで協力し、工夫していきたいと思えます。



(門永)

あしえんアートレイン

今年で9度目になった「あしえんアートレイン」。児童生徒が作った作品が、肥薩おれんじ鉄道の車内を彩りました。

11月5日（金）には、本校、佐敷分教室の児童生徒会役員が、作品を持って佐敷駅に提出しに行きました。

児童生徒は、ちぎり絵や水彩画など、得意な動きや方法で、芦北の自然、町並み、風景、電車の絵など、ユニークな絵画を作りました。作品は、11月12日（金）から12月21日（火）まで列車内等に展示されました。（吉田）



芦高祭

佐敷分教室

芦高祭に向けて、少ない時間ではありましたが芦北高校の福祉科との交流に学年毎に取り組みました。1年生と3年生は福祉科との動画作成、2年生は福祉科と「イラストゲーム」で交流を行い、当日は描いた絵を展示しました。また、今年度も壁新聞コンクールに出展し、今年は「芦北高校と歩んだ11年」をテーマに各学年で先生や友達に取材を行い、佐敷分教室の生徒全員で新聞を完成させました。

芦高祭当日は各学年の代表の弁論大会やSDGs講演を聞いたり、芦北高校の各学科の動画を見たりして楽しみました。（大塚）



人権教育の取組について

本校では12月3日（金）の全校集会で人権教育を行いました。「さるかに合戦」のアニメを見てさるが反省すべき点や行うべきであった行動をみんな考えて、命の大切さと相手のことを思いやる心の大切さを学びました。人権週間には学部ごとにテーマを決め児童生徒に分かりやすい人権教育を計画しています。分教室では12月2日（木）の全校集会で世界人権デーに関係するポスターを見て、その意義について考えました。

また、12月7日（火）に実施する人権教育の課題「拉致問題」の告知を行いました。（五嶋）



あしえんインフォメーション

○3学期の主な行事○

- ・始業式 1 / 1 1
- ・新成人を祝う会（佐敷分教室） 1 / 1 6
- ・佐敷分教室校外学習 2月上旬予定
- ・佐敷分教室販売会 2月中旬予定
- ・熊本県高等学校ダンス発表会（分教室） 1 / 2 3
- ・芦北水俣地区しごと発見塾（佐敷分教室） 2 / 1 8
- ・卒業証書授与式（佐敷分教室） 3 / 2
- ・卒業証書授与式（本校） 3 / 1 6
- ・修了式（本校、分教室） 3 / 2 4
- ・退任式 3月下旬

地域支援便り

「あなたは何かが好きですか。」「得意なことは？」「どんなことやってみたい？」「すごいね。」「できたね。」「がんばったね。」「どう思った？」「どんな気持ちだった？」「日頃の会話の中で、こんなやりとりを繰り返すことで、自己理解は深まっていくと思います。プラスの言葉、プラスの感情を持つことは大事です。その気持ちがあると、「これからどうしたい？」ということを考えられるようになるのではないのでしょうか。子どもたちが楽しい毎日をすごせるように、プラスの言葉を意識していきたいものです。（深浦）



緊急時や災害時等に活用する一斉メール配信システム『あしえん安全メール』の運用にあたり、下記の2社からの協賛をいただいています。

- ゆめタウン八代 様
- 熊本日日新聞社 湯前販売センター 様

「いとでんわ」は芦北支援学校の情報発信紙です。地域と共に成長する学校でありたいと考えています。関係者の皆様、地域の皆様のご意見をお待ちしています。

《御意見・問い合わせ》
 TEL 0966-82-4627
 FAX 0966-82-4606
 MAIL ashikita-s@pref.kumamoto.lg.jp

